虫刺されについて



「虫刺され」というと蚊にさされて赤く腫れてかゆくなることをイメージする方も多いかと思います。実際には、日本でも蚊以外にも色々な虫が虫刺されの原因となり、ブヨ、ダニ、ノミ、ハチ、トコジラミ、ケムシ、ムカデなどがあげられます。

■マダニによる虫刺され



日本にも多くの種類のマダニが生息しているといわれています。
マダニが媒介する感染症には、日本紅斑熱、ライム病、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、ダニ媒介性脳炎など死亡例のあるものがあります。
SFTS の発症は沖縄を含む西日本で多く報告されていて、ライム病の発症は一部の地域を除く日本中で報告され北海道で特に多く報告されています。
マダニによる感染症は年中報告されていますが、特に 5 月～ 8 月に多くの報告があります。

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome：SFTS）は、主に SFTS ウイルスを保有しているマダニに刺されることにより感染するダニ媒介感染症です。SFTS を発症している動物との接触により感染することもあります。

潜伏期間：6 日～ 2 週間程度
症　　状：発熱、消化器症状を主な症状とし、筋肉痛や神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴う事もある
治　　療：対象療法
抗ウイルス薬：日本では、アビガンの使用が承認されている

致死率は約 10 ～ 30%と高い。感染症法では 4 類感染症に位置付けられています。
SFTS は患者の血液などを介してヒトからヒトへ感染することもあり、2023 年には SFTS と診断された患者の診察にあたった医師が患者から感染した事例もあります。
血液、体液、粘膜、傷のある皮膚、汗以外の分泌物、排泄物に触れる際には感染予防策を行うスタンダードプリコーション（標準予防策）の徹底が必要となります。

マダニに刺されたら…

ダニ類の多くは、長時間（10 日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けてください。
マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けてください。
衣服についたダニはガムテープを使って取り除く方法が効果的です。

マダニなどの虫から身を守る服装

草むらなどマダニが多く生息する野外では、長袖、長ズボンを着用し、肌の露出をできる限り少なくしましょう。首にはタオルを巻くか、ハイネックシャツを着用し、シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れます。シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下に被せて入れましょう。

■トコジラミによる虫刺され

トコジラミは南京虫とも呼ばれるカメムシの仲間です。被害は近年、都市部や観光地を中心に再び拡大しています。訪日外国人の増加とともにトコジラミが持ち込まれるリスクも高まり、インバウンドの回復がトコジラミ被害拡大の原因とされています。

トコジラミは主に夜間に活動し、人やペット等を吸血します。吸血する際に、血液が固まらないようにアレルギー物質の含まれた唾液を注入するため、刺されるとかゆみや腫れ・発赤を起こします。

トコジラミは明るい場所では隙間に潜み、夜に活動するので見つけるのは難しいです。

最近では、『スーパートコジラミ』と呼ばれるピレスロイド系の一般的な殺虫剤に耐性のあるトコジラミが蔓延しています。見た目は普通のトコジラミと変わらないですが、ピレスロイド系の薬剤を使用しても効果がなく、トコジラミが興奮して他の部屋に移動するなど更なる被害拡大を招くことがあります。さらに日本で承認されている全ての殺虫剤がきかない『ネッタイトコジラミ』の被害も確認されています。

駆除を自己で実施する場合はスーパートコジラミにも有効なブロフラニリドなどの殺虫成分を用いた燻煙剤やスプレー剤などの薬剤を使用し、効果がみられない場合は駆除の専門業者に相談しましょう。

■国内で入手できる虫忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	効力持続時間	使用制限	特徴
ディート	5 ～ 10%	防除用 医薬部外品	1 ～ 2 時間	6 歳未満 使用禁止	独特の匂い べたつき感 プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することがある
	12%	防除用医薬品	約 3 時間		
	高濃度製剤 30%		約 6 時間	12 歳未満 使用禁止	
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～ 6 時間	年齢による 制限なし	ディートと同等の効果がある 使用できる年齢に制限がない 独特の匂いがない 衣類を傷めない
	高濃度製剤 15%	防除用医薬品	6 ～ 8 時間		



ディートの効果がある虫…蚊・ブヨ・アブ・マダニ・イエダニ・ノミ・トコジラミ・ヤマビル・サシバエ

イカリジンの効果がある虫…蚊・ブヨ・アブ・マダニ・イエダニ・トコジラミ・ヤマビル

■チクングニア熱



日本ではまだメジャーではないチクングニア熱ですが、ヨーロッパや中国など複数の国でチクングニア熱が発生しています。チクングニア熱に感染した人の血液を吸った蚊が他の人を刺すことでウイルスが広がります。

今後日本でも海外からの輸入例が増加し、感染が拡大する可能性もあります。

蚊が媒介する感染症を予防するには、屋外の蚊が多くいる場所では、できる限り肌を露出せず、忌避剤を適切に使用するなど、蚊にさされないようにすることが大切です。

【参考文献】 マダニ対策、今できること｜厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000164561.pdf
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について｜厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169522.html
トコジラミについて｜大阪府 https://www.pref.osaka.lg.jp/o100090/kankyoeisei/kininarumusi/bedbugs2.html

■内容に関する問い合わせは　産業保健・健康管理事業部　TEL:06-6312-5000（代表）

株式会社 ISEIKAI